2022.8.6

視覚障碍者や弱視者の自立と生活の質の向上の機会

MONDO　：　点字プリンター養成講座の参加者を訪ねる

数週間前、スルプスカ共和国視覚障碍者センターで、点字プリンターの使用に関するトレーニングが開始されました。

2台のプリンターで6人のグループがWordでテキストを編集し、準備を整え、最後に印刷する練習をしています。これら前向きな人々は時代に遅れずについていき、独立した生活に備える為に、主に先天的な障碍を補うために毎日活動しています。

当初から、彼らは自然のハンディキャップに加えて、仕事のための資金と技術の不足によって形作られた財政的なハンディキャップにも脅かされています。

（州と保健基金の両方による投資の不足による）

スルプスカ共和国盲人協会の会長である、Branko Suzic が言うように、人生は絶え間ない闘争です。

「点字トレーニング：未来への挑戦」　と題されたプロジェクトは、市当局の財政的支援を受けてスルプスカ共和国盲人協会が日本政府の援助によって受けた教育機器によって、盲人協会　バーニャルカ支部によって実施されました。これは高価な機器であり、点字だけでなく黒色の活字を印刷するオプションも同時に備えています。

「このプロジェクトの目標は、視覚障害のある人々にこの貴重で高価な機器の使い方を教える事です。私たちは現在、彼らにWordに慣れさせ、そのプログラムでテキストを編集することに取り組んでいます。これは非常に重要なプロジェクトです。独立性と世界への窓口を持つ人々、目の不自由な人や弱視の人がこの最新のテクノロジーを使用する様に訓練されると、例えばテキストを読んだりスキャンしたりするための本を準備する事が出来ます。

参加者は編集オプション、フォント、テキスト等を選択するのに役立つ音声コマンドを使用して、ニーズに合わせて調整された特別なコンピューターでトレーニングを受け、最終プロセスであるタイプされたテストのプリンターからの出力まで行われます。

点字印刷に使用する紙は高価で、1,000部の箱は100ユーロです。これらすべてか非常に高価です。機器、フレーム、点字の本を印刷すると全て数千マルクの費用が掛かります」とラダノビッチは説明します。

それがどのように機能するかについての理論的な説明を受けた後、Dajana JirkovicとTanja Latinovicの助けを借りて実際に全てがどのように見えるかのデモンストレーションも受けました。

「コースに参加して2週間が経ちました。これまでに5回のクラスがありました。

とても興味深いです。他の参加者と異なり、私は視覚障害がありません。つまり画面上ですべてを見る事が出来るという事ですが、今まではコンピューターのキーボードで操作できるコマンドやショートカットなど、多くの事を知りませんでした。役に立つ事を学びました。トレーニングと知識をうまく伝えてくれる講師に非常に満足しています。」

現在、この種の研修はバーニャルカのみで開催されています。これは新しいプリンターを最低2年間はセンターの敷地から持ち出す事が出来ないためです。（日本政府との契約に記載されている通り）。従って、デルベンタ・プリイェドル・ビイェリナ・フォチャ・東サラエボなど、音声点字読書室がある他の都市には、点字をサポートするプリンターがいくつかありますが、講師や専門スタッフが不足しているため、アクティブなプリンターはありません。